

令和7（2025）年度 第1回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会 議事概要

開催日時 令和7年10月16日（木）13：00～14：30

会議形式 栃木県庁研修館会議室302（オンライン併用）

出席者 委員13人、実験実施関係者（6人）

議題

（1）令和7年度の取組内容について

資料2に基づき、事務局から令和7年度の取組内容について説明した。資料3ページ以降は、（2）から（4）の議題が終了後に説明。

（2）日光市における実証実験の概要について

資料3に基づき、実験実施関係者から日光市の実証実験の概要について説明した。

《委員からの主な意見等》

- ・ 高反射塗料について、耐久性やコスト面の分析状況を伺いたい。【委員】

⇒令和5年度に塗装を実施した。降雪や除雪の影響もあるとは思うが、今回の実証実験では再度塗装をしなければならない状況。前回塗装してから2年が経過し、改良された耐久性の高い塗料もあることから、横断が多い交差点部については、耐久性の高い塗料での施工を検討している。今後、耐久性やコスト面についても検証していく。【実験実施関係者】

- ・ 高反射塗料のコスト面について、当該路線は市街地と異なる条件であることから、行政として支援方法等を検討してほしい。【委員】

（3）下野市における実証実験の概要

資料4に基づき、実験実施関係者から下野市の実証実験について説明した。

《委員からの主な意見等》

- ・ 移動以外の効果の定量化や地域への波及効果の考え方について伺いたい。【委員】

⇒中長期的な自動運転の展開を見据え、地域へのメリットについても検証ていきたい。自家用車利用が多い地域であるので、自家用車のCO₂削減効果や、アンケートを活用しながら把握していく。また、特設サイトは相互にコミュニケーションをとることができるものであり、昨年度は4,000人を超えるアクセス数があった。上手く活用していく。様々な視点から意見をいただけたとありがたい。【委員】

（4）小山市における実証実験の概要について

資料5に基づき、実験実施関係者から小山市の実証実験について説明した。

《委員からの主な意見等》

- ・ おーバス利用者への事前周知について、LINE と連携していると認識しているが、周知方法について伺いたい。【委員】
⇒LINE の外、市報への掲載、10月 14 日には実証実験のプレスリリースを行っている。
【委員】
⇒バス車内の周知も検討している 【実験関係者】

(1) 令和 7 年度の取組内容について

資料 2 の 3 ページ以降について、事務局から説明した。

《委員からの主な意見等》

- ・ 自動運転の技術向上も必要だが、道路管理者等の連携について伺いたい。【委員】
⇒昨年度の実証実験の際、道路管理者や交通管理者等を含め、走行環境の検証を行った。また、路車協調システムの実証実験も行っていく。道路管理者等と連携しながら、自動運転が走行しやすい環境について、県としてもテーマの一つとして捉えていく。【事務局】
- ・ 国としても、自動運転に資する路車協調システムおよび走行空間の実証実験を行っている。今年度の下野市実証実験についても、路車協調システム実証実験の実施に向けて調整させていただく。【委員】
- ・ 社会受容性の観点から、小山市実証実験において商業施設での体験は、普段路線バスを利用していない層にも届くと考える。自動運転に関心があり乗車する層だけでなく、知らずに乗車するケースも考えられる。実際に体験することで関心が高まり、行動変容につながることも考えられるので、計画を伺いたい。【委員】
⇒実際に自動運転バスに乗車いただくことが最も理解が深まると考えている。小山市の実証実験では商業施設内など、人目に多く触れる区間を走行するので、関心につながるケースもあると考えられる。【事務局】
⇒別地域において、自動運転バスだと意識せず乗車するケースも出てきている。特設サイトなども活用しながら、社会受容性の向上を図りたい。【委員】
⇒ゴールは日常の中で当たり前のように自動運転に乗ること。そこまでに時間はかかると思うが、引き続き実証実験の結果を見ながら検証していきたい。【委員】
- ・ 下野市・小山市の実証実験は連携して行うので、検証結果や課題は共有いただきたい。【委員】

(5) その他

- ・ 次回の協議会の開催については、各箇所の実験の状況や令和 7 年度の取組状況、また令和 8 年度以降の取組についての方針等がたまる年度末を想定している。具体的な日程は今後調整させていただく。【事務局】

以上